

# 2014 年度 事業報告書

特定非営利活動法人NIED・国際理解教育センター

## 1 事業実施の概略

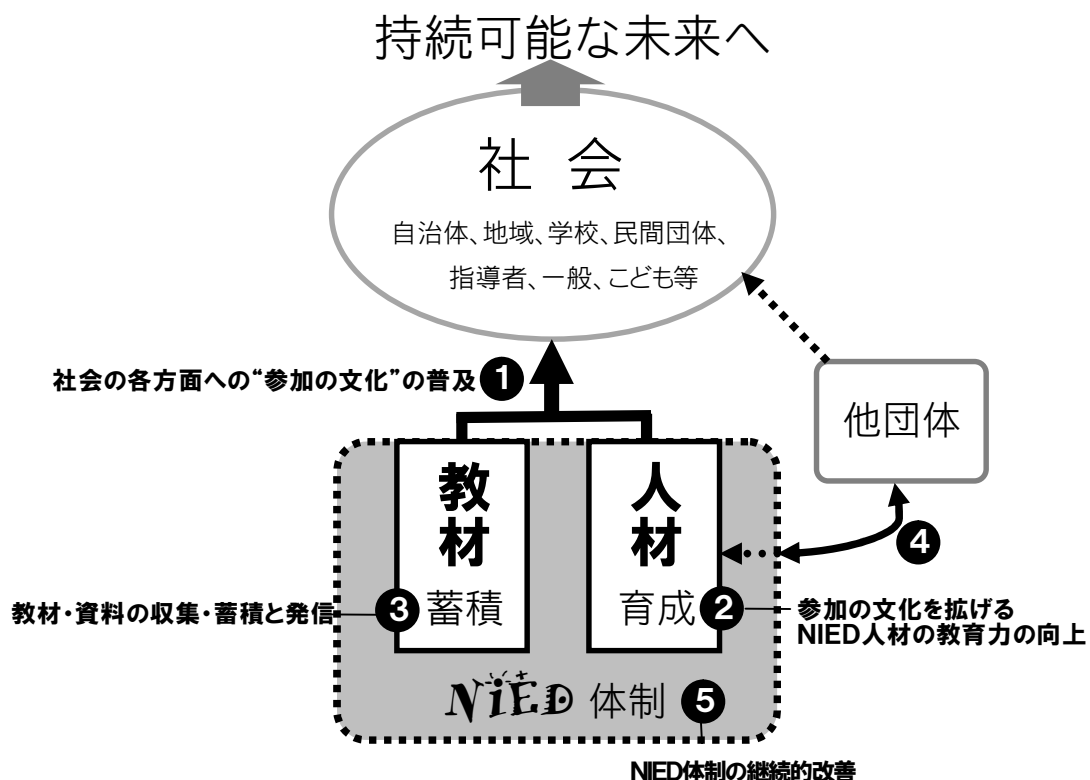
### (1) NIEDのミッション

お互いから学び合う力、参加する力、共働して創り出す力を育むための場と方法を提供し、市民一人ひとりが個別に持つ能力と持ち味を最大限に活かし、自分自身と自分たちの暮らす地域や地球に心を配り、参加と対話を通して環境や人権など様々な課題を解決していくという“参加の文化”を拡げ、持続可能な未来を築く。

### (2) ミッション実現のための方針

NIEDのミッション実現のために、次の5つの方針に従い、事業を行った。

方針	解説
① 社会の各方面への“参加の文化”の普及	NIEDが持つ人材と教材を活かし、社会の各方面に対して、お互いから学び合う力、参加する力、共働して創り出す力を育むための場と方法を提供する。
② 参加の文化を拡げるNIED人材の教育力の向上	NIEDのミッションの具現化を担う人材である、ワークショップを進行するファシリテーター、プロセス全体をマネジメントするコーディネーターを、育成する。
③ 教材・資料の収集・蓄積と発信	NIEDメンバーの経験知、関係団体や学識者の先行知見を収集・整理し、BQOE(Better Quality of Education)のための教材として、蓄積、プログラム開発、ワークショップや教育教材提供を通して発信を行う。
④ 他団体との理念の共有による参加の文化の拡大	東海地方を中心として、他団体との顔の見える関係の中から、参加の文化の共通理念を共有することを通して、参加の文化を広める。
⑤ NIED体制の継続的改善	上記の方針を実現するために、NIEDの運営方法やシステムを絶えず点検・評価し、より良くする。



## (3) ミッション実現のための方針に対する 2014 年度の総括

## ① 社会の各方面への“参加の文化”の普及

**指標による総括** 2014 年度に行った 43 の業務を、概況、テーマ、地域、主催者、ワークショップの時間数、ファシリテーター数の指標で評価した。

## &lt;2014 年度の業務の概況&gt;

◇参加の文化を拓げる指標の結果は下表のとおりである。全体的な傾向としては、2010～2013 年度の横ばい傾向だったものが、それ以前の 4 年間と比べ、業務数、ワークショップ (WS) 提供日数、WS 提供時間、WS 参加者数、延べ参加者数のいずれも 2014 年度は 30～40% 増となっている。新規依頼数が 43 件中 20 件と、新規開拓の業務が増えたことが拡大の要因であると同時に、2013 年度業務 31 件のうち 23 件 (74%) は 2014 年度も継続的な依頼・実施であったことも大きいといえる。

指標名	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
業務数	27	34	32	31	<b>43</b>
WS提供日数	127	128	147	137	<b>181</b>
WS提供時間	422	397	432	409	<b>536</b>
WS参加者数	1,104	1,774	1,680	1,383	<b>1,985</b>
延べ参加者数	2,553	3,582	3,444	2,772	<b>3,926</b>
新規依頼数	14	17	11	13	<b>20</b>
新規依頼率	52%	50%	34%	42%	<b>47%</b>
継続実施率	46%	63%	63%	56%	<b>74%</b>
指導者研修率	59%	59%	59%	58%	<b>63%</b>

## &lt;業務のテーマ&gt; T 講座を除く

◇国際理解系 (多文化共生を含む) が 13 件と最も多いが、1 件差で人権系 (セルフエスティーム・コミュニケーション・子どもの参画を含む) が 12 件と多い。次いで多い環境系は、ESD ユネスコ世界会議 あいち・なごやも関係し、例年の倍以上の 10 件となっている。そのほか、まちづくり・団体支援系が 7 件であり、4 大テーマがバランス良く依頼・実施された 2014 年度であったといえる。

テーマ	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
国際理解系	15 件	16 件	16 件	12 件	<b>13 件</b>
人権系	3 件	10 件	4 件	8 件	<b>12 件</b>
環境系	3 件	2 件	4 件	5 件	<b>10 件</b>
まちづくり・団体支援系	4 件	4 件	6 件	5 件	<b>7 件</b>

### <業務を行った地域>

◇愛知県が 32 件と最多で、次いで、香川・徳島・高知県と岐阜・三重・静岡県が 5 件ずつとなっている。  
2013 年度比では、香川県が 2 件増えたほかは、ほとんどが愛知県内の依頼・実施増であった。

地域	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
愛知県	17 件	23 件	22 件	22 件	<b>33 件</b>
香川・徳島・高知県	2 件 [1,1,0]	2 件 [1,1,0]	2 件 [1,1,0]	2 件 [1,1,0]	<b>5 件</b> [3,1,1]
岐阜・三重・静岡県	7 件 [2,4,1]	6 件 [1,2,3]	6 件 [2,3,1]	7 件 [4,2,1]	<b>5 件</b> [2,3,0]
その他遠県等	1 件 群馬	3 件 群馬、長野、大阪	2 件 京都、長野	0 件 -	<b>0 件</b> -

### <業務の主催者>

◇最も多い業務の主催者は、自治体系（地方自治体や地域国際化協会など）の 16 件であった。次いで、教育団体系（教育委員会や学校など）が 13 件、NPO（自主講座を含む）が 12 件、JICA が 2 件であった。前年度比では、自治体系が 8 件増えたことが際立っている。

主催者	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
自治体系	10 件	10 件	8 件	8 件	<b>16 件</b>
教育団体系	8 件	15 件	8 件	10 件	<b>13 件</b>
NPO	7 件	6 件	13 件	11 件	<b>12 件</b>
JICA	2 件	3 件	2 件	2 件	<b>2 件</b>
その他民間団体	1 件	0 件	0 件	0 件	<b>0 件</b>

### <1 業務あたりのワークショップの時間>

◇3～4 時間および 12 時間超が 12 件と最も多く、次いで 4.5～6 時間が 10 件、6.5～12 時間が 5 件などであった。2013 年度比では、3 時間未満が 3 件減り、4.5 時間以上が合計で 13 件増え、直近 5 年間の中では比較的長時間の依頼・実施となっているといえる。

業務あたりの WS 時間	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
3 時間未満	3 件	12 件	9 件	6 件	<b>3 件</b>
3～4 時間	4 件	4 件	2 件	11 件	<b>12 件</b>
4.5～6 時間	7 件	4 件	6 件	1 件	<b>10 件</b>
6.5～12 時間	2 件	4 件	5 件	5 件	<b>6 件</b>
12 時間超	11 件	10 件	10 件	8 件	<b>12 件</b>

**<依頼ファシリテーター数、時間(担当)>**

◇依頼ファシリテーター数(複数回講座でも1人で担う場合は1人として計上)は、56人と、直近5年間の中では最も多い依頼数となっている。

◇代表の請負率(代表率)をみると、人ベースで50%、日ベースで56%であり、2013年度比では、人数ベースでは5ポイント増えている。

◇代表以外の残り50%のうち、研究員補等の割合が13%と2012~2013年度よりも7ポイント下がっており、その分研究員が担った分が増えている。

ファシリテーター		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度 (人ベース)	2014年度 (日ベース)
代表	伊沢	19	26	19	23	28	91
研究員	平野	3	4	6	2	8	9
	伴	5	2	3	3	6	26
	茅谷	2	2	1	2	2	4
	久世			1	2	2	21
	川合	2	3	4	6	1	1
	滝		1	2	1	1	1
	山田	1	5	1	2	1	2
	田中	1					
研究員補等	吉岡	1	1				
	坪井	1	1	1	1		
	堀川		3	2	3	3	3
	永谷		1	1	3	1	1
	中西あ		1	1	1		
	山田裕			1			
	奥田			3	1		
	守屋				1	1	1
	菱川					1	1
	鉄井					1	1
合計		35	50	46	51	56	162
代表率		54%	52%	41%	45%	50%	56%
研究員補等数		2	7	9	10	7	7
同上率		6%	14%	20%	20%	13%	4%
備考 (複数F依頼)		JICA(3) 愛知学院(4) 三重環境(2)	JICA(3) 愛知学院(4) 中京大(3) 三重環境(2)	JICA(3) 愛知学院(2) 中京大(3) NANGOC(2) 三重環境(2) 春日小(3) 小幡小(3)	JICA(3) 愛知学院(2) 中京大(3) NANGOC(4) 三重環境(2) 小幡小(3) 国理セミナー(3)	JICA(3) 愛知学院(2) 中京大(4) NANGOC(2) 三重環境(2) 小幡小(3) 国理セミナー(3)	

注1: 自主講座、打合せ会議、市民主体のイベント支援に関わるのファシリテーターは除いた。

注2: 人ベースの伊沢分のうち、JICA開発教育指導者研修(実践編)と教師海外研修国内研修は2人分、刈谷市3つのプロジェクトは3人分と見直した。

**手だてに対する総括** 事業計画で挙げられた具体的な手だてについての成果と課題は次のとおりである。

体制や仕組み	具体的手だて	総括
<p>＜受託業務＞ 事務局 (代表・事務局長) ＜担当:事務局＞</p>	<p>◇以降に掲げる②、③、④、⑤の具体的手立てを通じて、NIEDが持つ人材と教材を活かし、社会の各方面に対して、お互いから学び合う力、参加する力、共働して創り出す力を育むための場と方法を提供する。</p>	<p><b>【成果】</b> ◇各業務のミッションやニーズに応えつつ、国際理解教育のテーマや参加型スキルを基に、43の業務において、参加の文化を広めることができた。 ◇前年度業務の継続実施率が74%であることから、信頼醸成が図られていると言える。 ◇新規依頼数が20件と前年度より7件増加し、より新しい場への参加の文化の普及ができたと言える。 ◇指導者研修率約6割を維持し、研修を受けた指導者を通じた参加の文化の広がりを持つことができた。</p> <p><b>【課題】</b> ◇今後より参加の文化を拓けるのであれば、NIEDとしての国際理解教育、参加型、まちづくりの理論やスキルを体系的に構築し、それをベースに、自主講座の充実や、助成金を含めた受託営業等を行う必要がある。 ◇上記のことを行うかどうか、現状の有給専従2名の事務局体制の見直しも含めて、そのあり方について検討する必要がある。</p>

## ② 参加の文化を広げるNIED人材の教育力の向上

**手だてに対する総括** 事業計画で挙げられた具体的な手だてについての成果と課題は次のとおりである。

体制や仕組み	具体的手だて	総括
<p><b>【ステップ1】</b> ～国際理解教育講座 テーマ編 (T講座) ＜担当:久世＞</p>	<p>◇NIEDが実践・推進する国際理解教育を広く普及し、持続可能な未来を築く人材の育成を図るため、人権、環境、共生、平和などの国際理解教育のテーマについて学ぶ場として、1回6時間の自主講座を数回、実施する。</p> <p>◇NIEDファシリテーターへのステップ1として、原則としてT講座のテーマを3つ以上受講したことを条件とする。</p>	<p><b>【成果】</b> ◇国際理解教育の様々なテーマ(セルフエスティーム、参加、環境、多文化共生、人権)について講座を行い、テーマごとに参加者とともに、学びを深めることができた。 ◇各回6～18人(延べ56人)の参加者を得て、参加の文化の普及に寄与できた。</p> <p><b>【課題】</b> ◇会場が狭くアクティビティが限られるケースがあり、開催会場について検討が必要である。 ◇有料の講座として、質的保障を常に維持・発展されていく必要がある。</p>
<p><b>【ステップ2】</b> ～国際理解教育講座 ファシリテーター編 (F講座) ＜担当:伊沢＞</p>	<p>◇NIEDが実践・推進する国際理解教育を広く普及し、国際理解教育の指導者の育成を図るため、わたし・あなた・みんなに関わる力の育成、参加型のファシリテーションのスキル、参加型のプログラムづくりのスキルについて学ぶ場として、1回6時間の自主講座を3回実施する。</p> <p>◇NIEDファシリテーターへのステップ2として、原則として同一年度内にF講座すべて受講したことを条件とする。</p>	<p><b>【成果】</b> ◇持続可能なよりよい未来づくりにつながる「価値観」と「スキル」を育てるという教育ファシリテーションにフォーカスした2日間とコンパクトに集約した講座を提供できた。 ◇NIEDの新しいメンバーに向けて、「わたし」「あなた」「みんな」という概念とスキルについての再確認できた。 ◇2日間で延べ31名の参加者を得た。</p> <p><b>【課題】</b> ◇「気づき」のアクティビティの体験を増やす必要がある。 ◇2日間のため、本来のファシリテーター講座に盛り込んでいるプログラムづくりまで行えなかった(ステップ2の確保上の問題があった)。</p>

体制や仕組み	具体的手だて	総括
<p><b>【ステップ3-1】</b> NIED寄り合い ＜担当:久世・滝＞</p>	<p>◇NIEDファシリテーター相互のファシリテーションフォローアップの場として、わたし・あなた・みんなに関わる力を育てるアクティビティ体験、国際理解教育のテーマに関わるアクティビティ体験、その他NIED人材の教育力向上に資する活動を、NIED寄り合いとして、関係プロジェクト及びNIEDメンバー有志により開催できるようにする。</p> <p>◇NIEDファシリテーターへのステップ3として、NIED寄り合いに3回以上参加し、うち1回以上NIED寄り合いでファシリテーターとしてアクティビティを提供したことを条件とする。</p>	<p><b>【成果】</b> ◇わたしに関わる力を育てるアクティビティ体験は、わたし・あなた・みんなプロジェクトの活動「SEラボ」として提供できた。 ◇国際理解教育のテーマに関わるアクティビティ体験は、T講座プロジェクトの検討寄り合いを通じて、提供できた。</p> <p><b>【課題】</b> ◇参加者が両プロジェクトのメンバーが中心で広がりとしては少なかった。 ◇有志による「この指止まれ方式寄り合い」を想定していたが、1回も実施されなかった。</p>
<p><b>【ステップ3-2】</b> わたし・あなた・みんなプロジェクト ＜担当:滝＞</p>	<p>◇国際理解教育の基盤である「1. 人権と環境 2. セルフエスティーム・コミュニケーション・参加協力 3. なぜ参加型か？」を体系的に学ぶ機会を設け、NIEDの国際理解教育をNIED内外にはっきりと打ち出す。</p> <p>◇自主プロジェクトとして、ステップ3-1NIED寄り合いの計画提供する「わたし(セルフエスティーム)・あなた(コミュニケーション)・みんな(市民性・参加型)ラボ」を行うことにより、NIEDファシリテーターとしての共通基盤強化とスキルアップの機会を設ける。</p>	<p><b>【成果】</b> ◇アクティビティを提供するステップの場は3回提供できた。 ◇SEラボの中で出てきたものを、T講座にリンクさせて、実践することができた。 ◇ステップ3-1の「1回以上NIED寄り合いでファシリテーターとしてアクティビティを提供」に寄与することができた。</p> <p><b>【課題】</b> ◇プロジェクトの登録メンバーが中心で、もう少し広がりを作れるとよい。</p>
<p><b>【ステップ4】</b> 国際理解教育T講座プロジェクト ＜担当:久世＞</p>	<p>◇上記1～3のステップをクリアしたメンバーが、メンターとしての研究員等とともにT講座のメイキング、ファシリテーターを行う経験及びふりかえりを通して、ファシリテーターとしての意識と実践力、プログラムづくりのスキルを学ぶ機会を作る。</p> <p>◇T講座によるファシリテーターとしての成長を評価するために、メンターである研究員等によるふりかえり、評価の指標づくりを行い、より良い教育力向上の仕組みづくりに生かせるようにする。</p>	<p><b>【成果】</b> ◇2014年度のT講座ファシリテーターのうち4人は初提供であり、ステップアップの経験を増やすことができた。 ◇担当研究員とのプログラム検討、T講座寄り合いを通じ、プログラムづくりやファシリテーションの知識や想いを共有することができた。</p> <p><b>【課題】</b> ◇T講座のファシリテーター、担当研究員ともに、安定して人材を確保していくことに不安が残り、ステップアップのあり方、会員のニーズや課題について検討する必要がある。</p>
<p><b>【ステップ5】</b> NIEDファシリテーター制度 (研究員、研究員補、T講座F経験者) ＜担当:事務局＞</p>	<p>◇受託・派遣事業のうち、複数人数を必要とするもの、代表の都合が付かないもの、地域に根ざした事業でその地域に住むファシリテーターが実施した方が効果的と考えられるものに対し、NIED内部で人材育成した「研究員等」を派遣する。</p> <p>◇条件が許す範囲で、T講座F経験者、研究員補がファシリテーターを務められるように、一般向けの講座の受託も行っていく。</p>	<p><b>【成果】</b> ◇代表以外がファシリテーターを担う割合が50%と、バランスよく研究員制度を機能させることができた。</p> <p><b>【課題】</b> ◇特定の人に偏りがちとなっている現状を打破する必要がある。 ◇研究員補が研究員になるため指導者研修派遣機会の作り方を検討する必要がある。</p>
<p><b>IVY(アイビー)制度</b> ＜担当:事務局＞</p>	<p>◇NIEDファシリテーターが他のNIEDファシリテーターが実施する研修・講座等と同行し、実際にワークショップやファシリテートを見て学ぶ機会を作る(交通費自己負担、報告書提出)。</p>	<p><b>【成果】</b> ◇2014年度の利用は1名1業務であった。</p> <p><b>【課題】</b> ◇新入会員が増えていることもあり、定期的な制度の周知が必要。</p>

## ③ 教材・資料の収集・蓄積と発信

手だてに対する総括 事業計画で挙げられた具体的な手だてについての成果と課題は次のとおりである。

体制や仕組み	具体的手だて	総括
書籍管理 プロジェクト ＜担当：伴＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇有償のプロジェクト担当を配置し、これまで収集した全ての書籍や資料のデータベース化を行い、系統的かつ実用可能な状態に整理し、貸し出しルールを構築する。</li> <li>◇事務所NIEDブースの書籍・資料の開架・閉架の区別をして、新規購入書籍の配架スペースを確保する。</li> <li>◇NIEDが持つ書籍・資料などをウェブ上で紹介や検索できるシステムを再構築し、NIEDメンバーが閲覧できるように周知する。</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇長期貸し出し書籍の返却を試み、貸し出し帳を作った。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇システムの方向性を定める、閲覧システムと作る必要がある。そのために、整理日を設定して計画的に進める必要がある。</li> <li>◇余裕のある配架スペースを確保する必要がある。</li> </ul>
NIED実績成果 共有システム ＜担当：事務局＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇フローな情報は NIED 会員メーリングリストで、ストックな情報は Dropbox で共有できるよう運営・管理を行う。</li> <li>◇NIED自主講座の記録、NIEDの受託業務の記録、成果物など、NIEDファシリテーターをめざすメンバーに有益・有効な教材・資料を共有するために、Dropbox「NIED-ShareBox-2」の充実を図る。</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇NIED 会員メーリングリストを円滑に運営し、月1回の「NIED徒然」を通して、NIEDの業務について共有できた。</li> <li>◇実績成果に関わる情報ボックスである「NIED-ShareBox-2」フォルダに、過去のT講座の記録等を格納することができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇「NIED-ShareBox-2」対象者 26 名のうち、登録者 8 名、登録率 31%であることから、周知・登録率向上を図る必要がある。</li> <li>◇教材・資料の共有基準づくりと格納作業を進める必要がある。</li> </ul>
「わたしに関わる力」 オリジナルテキスト作成 (わたし・あなた・みんな プロジェクト) ＜担当：滝＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇既成のセルフエスティームを高める手法を各種書籍・文献から研究し、重要かつ効果的と思われる情報やアクティビティをピックアップし、NIED 寄り合いでの提供・検証しながら、NIEDのオリジナルテキストを作成する。</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ SE ラボ寄り合いで既存のアクティビティの提供と検証を通じ、各メンバーのセルフエスティームに対する考え方を共有できた。また、NIED 内において、セルフエスティームについて考える場の提供ができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇セルフエスティームの理解、既存のアクティビティの検証方法の検討に時間を費やし、具体的なテキストづくりまで進めなかった。</li> </ul>
ホームページ・広報 プロジェクト ＜担当：川合＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇NIEDの理念、実績を、NIEDウェブサイト、NIED ブログ、NIED フェイスブックページを通して、引き続き発信する。</li> <li>◇上記電子媒体を通して、NIED が奨める国際理解教育に関する教材・資料、NIEDの特筆すべき他にインパクトを与えられる実績を、できる限り紹介するようにする。</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇NIED ブログ、NIED フェイスブックページを随時、更新することができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇どこまで積極的に更新していくか、一定の基準づくりと手続きを定める必要がある。</li> <li>◇NIED紹介リーフレットがそろそろ品切れのため、その後を検討する必要がある。</li> </ul>

## ④ 他団体との理念の共有による参加の文化の拡大

手だてに対する総括 事業計画で挙げられた具体的な手だてについての成果と課題は次のとおりである。

体制や仕組み	具体的手だて	総括
<p>国理4団体との協働 「国際理解教育 セミナーinなごや」 (実行委員会) ＜担当:伴＞</p>	<p>◇愛知地域の国際理解教育を進める4団体(愛知県国際交流協会、名古屋国際センター、JICA中部、名古屋NGOセンター)とともに、セミナーの企画・立案、実施を行う。</p> <p>◇昨年度の5団体の協働のあり方についての議論を発展させて、今後のより良い協働やセミナー等につなげていくために、実行委員会の中で NIED が率先して、参加の文化の理念を共有しながら、提案、会議ファシリテートを行うよう努める。</p>	<p>【成果】</p> <p>◇5団体が、事務局業務、会議運営を分担し、セミナーのねらいを確認し、その実施に向けて協働、貢献することができた。</p> <p>◇セミナー当日は 105 名の参加者が9つの分科会に参加し、学んだことを全体会で共有した。活発に意見交換する姿があり、この地域での5団体による国際理解教育セミナーの開催の意義を確認できた。</p> <p>【課題】</p> <p>◇1団体が脱退し、協働のあり方についても議論が出ているため、国際理解教育セミナーについて総括するとともに、今後の協働のあり方について、方向性を定める必要がある。</p>
<p>名古屋 NGO センターとの協働、連携 「NGO研究会」 ＜担当:滝＞</p>	<p>◇NIEDと名古屋NGOセンターの役職を兼ねているメンバーの強みを生かし、NIEDとNGOセンターとの協働、連携を引き続き図っていく。</p> <p>◇具体的な案件として、名古屋NGOセンターが外務省から受けた ESD に絡めた「NGO研究会」事業に、NIEDのリソースを生かして協力する予定である。</p>	<p>【成果】</p> <p>◇NIED のリソースを生かし適切なアドバイスや講座の提供ができ、研究報告書につなげることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>◇ネクストステップとして、NIED としての成果の活用の仕方を考える必要。</p>
<p>ESD5団体との協働 「ESD2014 に向けた 意見交換会」 ＜担当:伊沢＞</p>	<p>◇2012～2013年度に引き続き、愛知地域の ESD・子ども若者・教育に関わる 5団体(EPO中部、アスクネット、こどもNPO、風"s、名古屋NGOセンター)とともに、2014年11月に愛知・名古屋地域で開催される ESD ユネスコ世界会議に絡めた教育提言をまとめるための意見交換、執筆を行う。</p>	<p>【成果】</p> <p>◇協働による提言をまとめるプロセスで、これまでNIEDが取り組んできたことを、ESDの概念や「自己肯定感を育てる」という視点から、再整理、確認、提供することができた。</p> <p>◇意見交換の成果を『これからの ESD 実践への提案 自己肯定感を育む環境をつくる』にまとめるための執筆支援などを行い、ESD ユネスコ世界会議あいち・なごやで発信することができた。</p> <p>【課題】</p> <p>◇ESD ユネスコ世界会議あいち・なごやでの発信後、ポストESDをどのように進めていくか、協働団体で検討する必要がある。</p> <p>◇提言だけでなく、それを実現するための協働のモデルプログラムを創り上げることができるとよい。</p>



体制や仕組み	具体的手だて	総括
<p>こどもNPOとの協働 「理想の学校プロジェクト」 ＜担当:伊沢＞</p>	<p>◇子どもの生きる権利・守られる権利・育つ権利・参加する権利を守り、子ども1人ひとりの力の発揮を地域に根ざした活動を通して具体的に応援してきたこどもNPOと、持続可能な未来のための価値観と、わたし・あなた・みんなに関わる力を育て合う場と機会を参加型で作ってきたNIEDとの経験知を融合させ、自立と共生を支え合い平和を創り出すための「学びの場・学校」を構想し、実現に向けて必要なものをさぐり、共有確認する。</p>	<p>【成果】</p> <p>◇「平和を創り出す学校プロジェクト」から発展的に、こどもNPOとの協働で始まった本取り組みの見通しを持つことができた。</p> <p>◇実際にプロセスデザインに従い、進めることができた。「どんな学校をめざすのか」について、調査研究を通して、明らかにすることになってきている。</p> <p>【課題】</p> <p>◇プロセスデザイン後半の学校づくりの具体化に向けて、ソフト、ハード、マネジメントなどについて合意形成を行っていく必要がある。</p> <p>◇具体的な学校づくりにおいては、NIEDやこどもNPOの活動を大きく越えることから、組織の独立を図る必要がある。</p>

## ⑤ N I E D体制の継続的改善

手だてに対する総括 事業計画で挙げられた具体的な手だてについての成果と課題は次のとおりである。

体制や仕組み	具体的手だて	総括
<p>NIED情報共有システム ＜担当:事務局＞</p>	<p>◇メールリストで、随時情報の共有を行うとともに、Dropbox で、NIED の基本的な資料は、全会員向けの「NIED-ShareBox-1」フォルダに随時格納し共有する。</p> <p>◇NIEDの動向や翌月のNIEDのスケジュールをメンバー間で共有するため、メールリストレター「NIED 徒然」を、月1回の発行は必須とする。NIED スケジュールを事務局以外でも発信できるようになる必要があることを念頭に置きつつ、NIED徒然は毎月 25 日前後に代表が責任を持って発行する。</p> <p>◇Dropbox 登録率 100%したり、共有しているNIED 情報にアクセスできていないメンバーに対して、Dropbox の導入の仕方や共有しているNIED 情報の説明会を行う。</p>	<p>【成果】</p> <p>◇メールリストで、随時情報の共有を行うとともに、Dropbox で、NIED の基本的な資料は、全会員向けの「NIED-ShareBox-1」フォルダに随時格納できた。</p> <p>【課題】</p> <p>◇「NIED-ShareBox-1」の登録は、対象者 44 名のうち 33 名である。新入会員の増加で前年度よりも下がっているため、周知や使い方説明会を行う必要がある。</p> <p>◇Dropbox の登録などにハードルがあるため、他の方法による情報共有についても導入を行う必要がある。</p>
<p>事務所・事務局機能 ＜担当:事務局＞</p>	<p>◇NIED事務局の仕事の内容を円滑に進められるよう、有償で事務局長を置く。</p> <p>◇事務所の整理・整頓は、最低限ブース机の上は片付けるようにする。</p> <p>◇NIED 事務所予約システムを全会員で共有し、フリースペースの利用管理を円滑に行う。</p> <p>◇不在がちな事務所固定電話を解約し、携帯電話(PHS)による問い合わせ・業務受付とする。</p>	<p>【成果】</p> <p>◇事務所が共同事務所の改装に伴い、事務所スペースの整理・整頓ができた。</p> <p>◇事務所予約システムを構築でき、運用も問題なくできた。</p> <p>◇携帯電話による受付が円滑にできた。</p> <p>【課題】</p> <p>◇事務局機能のほとんどを事務局川合が担っており、バックアップ体制や将来的な方向を考えた体制づくりを検討する必要がある。</p>

## ■ NIED事務局仕事の内容 ■

NIED事務局の仕事の範囲を以下のとおり定め、主に事務局長がこれにあたる。

### 1. 事務所機能

- (1) 事務所への電話、FAX、Eメール、来客への対応（不在時の電話対応は転送機能で補う）
- (2) 事務所の書籍、資料、備品の購入・管理
- (3) NIEDホームページ、リーフレット等の広報媒体の管理・更新
- (4) 会計、税理士との連絡・調整、税務処理
- (5) 県への事業実績報告書の提出
- (6) 法務局への各種届出

### 2. 会員管理及び理事会・総会の運営

- (1) 会員の入会、退会の管理、会員情報の管理
- (2) 会費の徴収、督促
- (3) 会員相互の情報交流のためのメーリングリストの運営・管理
- (4) 理事会、総会の開催事務（資料作成、案内発送、会場確保、当日運営支援、議事録作成など）
- (5) 理事相互の意見交換のためのメーリングリストの運営・管理

### 3. 自主講座、受託事業の業務対応

- (1) 自主講座の広報（チラシ送付、電子メール送信など）と当日運営支援
- (2) 依頼予定者からの問い合わせ対応
- (3) 代表等のスケジュール管理（ウェブカレンダー）
- (4) 派遣ファシリテーターの調整
- (5) 受託事業の教材・資料の作成（必要に応じて。外注事業をのぞく。）
- (6) 受託事業の経理処理（必要に応じて交通チケットの購入、事業ごとの収入支出の管理など）

### 4. その他

- (1) その他NIEDの運営に必要な事項

2008.5.24 理事会承認

## 2 事業の実施に関する事項(特定非営利活動に係る事業)

### ● A. 参加・対話・体験型の研修・講座などに対する相談・ファシリテーター派遣事業

#### (1) 事業内容

自治体、教育委員会、民間団体などからの依頼により、人権・子ども、ESD・環境、国際理解・多文化共生、まちづくり・ファシリテーションなどをテーマとした参加・対話・体験型講座・研修にファシリテーターの派遣を行った。

#### (2) 開催概要

2014 年度は、合計 22 事業（前年度：19 事業）で、研修等の提供時間は 158.5 時間（前年度：121.0 時間）あった。個別の事業の依頼主／主催、事業名／研修テーマ、実施日時、場所、対象、参加者数、提供時間、ファシリテーター・スタッフなどの詳細は巻末一覧表、収入・支出の内訳は活動計算書類を参照のこと。

#### (3) 延べ参加者数

1,361 人（前年度：1,011 人）

#### (4) 支出額

1,276,127 円（昨年度：868,702 円）

#### (5) 収入額

2,052,632 円（昨年度：1,357,634 円）

### ● B. 基礎研修およびファシリテーター養成などの自主講座事業

#### (1) 事業内容

例年の人権・環境など国際理解教育の基本テーマを扱う基礎講座とファシリテーター講座のほか、新たに PTL ファシリテーター講座を自主事業として行った。

#### (2) 開催概要

2014 年度は、合計 3 事業（前年度：2 事業）で、研修等の提供時間は 68 時間（前年度：45 時間）であった。個別詳細は巻末一覧表および活動計算書類参照のこと。

#### (3) 延べ参加者数

121 人（前年度：100 人）

#### (4) 支出額

562,470 円（昨年度：362,852 円）

#### (5) 収入額

543,000 円（昨年度：188,000 円）

### ● C. 環境や人権などを視点としたまちづくりのプロセス企画・実施事業

#### (1) 事業内容

地方自治体などにおける環境や人権を視点としたまちづくりのプロセス・プログラムの企画立案、フ

アシリテーターとしての支援、記録・報告書作成までの一連の業務を行った。

(2) 開催概要

2014 年度は、合計 5 事業（前年度：4 事業）、研修等の提供時間は 237.5 時間（前年度：199.5 時間）のワークショップを行った。個別詳細は巻末一覧表および活動計算書類参照のこと。

(3) 延べ参加者数

・2,015 人（前年度：1,483 人）

(4) 支出額

16,109,592 円（昨年度：13,405,594 円）

(5) 収入額

18,426,190 円（昨年度：16,383,641 円）

● **D. 目的を実現するために必要な調査・研究・情報提供事業**

(1) 事業内容

国際理解教育・開発教育を推進するため、「必要な調査・研究を行う」、「具体的なセミナーを開く」、「PRする」ことを、研究会方式、実行委員会方式などにより、関係団体と共働するなどして行った。

(2) 開催概要

2014 年度は、7 つの事業（前年度：6 事業）、研修等の提供時間は 72.0 時間（前年度：43.0 時間）のワークショップなどを行った。個別詳細は巻末一覧表および活動計算書類参照のこと。

(3) 延べ参加者数

・429 人（前年度：178 人）

(4) 支出額

211,808 円（昨年度：268,917 円）

(5) 収入額

491,100 円（昨年度：255,599 円）

### 3 会議の開催に関する事項

● 総会

(1) 定期総会

ア 開催日時および場所

2014 年 6 月 8 日（日）13 時 40 分～14 時 05 分、NIED 事務所フリースペース

イ 議題

- ① 第 1 号議案 2013 年度の事業報告（案）および収支決算（案）の承認に関する件
- ② 第 2 号議案 2014 年度の事業計画（案）および収支予算（案）の承認に関する件
- ③ 第 3 号議案 理事の補充増員に関する件

## ● 理事会

### (1) 第1回理事会

#### ア 開催日時及び場所

2014年4月19日(土) 10時50分～13時30分、NIED事務所フリースペース

#### イ 議題

<報告事項> 2013年度事業の概要、2014年4月現在の会員の状況、その他

<協議事項>

- ①ファシリテーター制度の改定について
- ②2013年度の事業計画のふりかえり評価について
- ③参加型市民性共育大学構想、NGO研究会への協力について

### (2) 第2回理事会

#### ア 開催日時及び場所

2014年6月1日(水) 13時30分～15時30分、NIED事務所フリースペース

#### イ 議題

<協議事項>

- ①2013年度の事業実績報告(案) および収支決算(案) について
- ②2014年度事業実績計画(案) および収支予算(案) について

### (3) 第3回理事会

#### ア 開催日時及び場所

2014年8月29日(金) 18時00分～20時40分、NIED事務所フリースペース

#### イ 議題

<報告事項> 2014年度の業務状況

<協議事項>

- ①2014年度事業計画の進捗よく状況と課題について  
 ※事業計画の5つの柱のうち②～④について、各プロジェクトの進捗よく状況、協議したい課題、今後の予定などを協議した。
  - ② 参加の文化を拓げるNIED人材の教育力の向上…T講座プロジェクト、わたし・あなた・みんなプロジェクト、NIEDファシリテーター制度、IVY制度
  - ③ 教材・資料の収集・蓄積と発信…書籍管理プロジェクト、NIED実績成果共有システム、ホームページ・広報プロジェクト
  - ④ 他団体との理念の共有による参加の文化の拡大…国理セミナー、NGO研究会、ESD2014に向けた意見交換会、理想の学校プロジェクト
  - ⑤ NIEDの体制強化…NIED情報共有システム、事務所機能
- ②理事就任にあたっての意思表示について
- ③寄合募金の取り扱いについて

(4) 第4回理事会

ア 開催日時及び場所

2014年10月18日(土) 10時45分～14時00分、NIED事務所フリースペース

イ 議題

<報告事項> 2014年度の業務状況

<協議事項>

①2014年度事業計画の進捗状況と課題について

②寄合募金廃止後の残金について

(5) 第5回理事会

ア 開催日時及び場所

2014年12月14日(日) 11時00分～14時00分、名古屋NGOセンター会議スペース

イ 議題

<報告事項> 2014年度の業務状況

<協議事項>

①2014年度事業計画の進捗状況と課題について

②自主講座のキャンセル対策について

③NIED会員かつ学生の自主講座割引について

(6) 第6回理事会

ア 開催日時及び場所

2015年1月25日(日) 10時30分～13時00分、NIED事務所フリースペース

イ 議題

<報告事項> 2014年度の業務状況

<協議事項>

①2014年度事業計画の進捗状況と課題について

②国際理解教育セミナーinなごや実行委員会への関わりについて

③語るカフェ@もとやまについて

④PLTファシリテーター講座の開催(共催)について

(7) 第7回理事会

ア 開催日時及び場所

2015年3月29日(日) 10時30分～13時00分、NIED事務所フリースペース

イ 議題

<報告事項> 2014年度の業務状況

<協議事項>

①2014年度事業計画の進捗状況と課題について